

## 「強度行動障害」と呼ばれてしまう人について

(一社)栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子

栃木県手をつなぐ育成会のホームページへのご訪問ありがとうございます  
今回は強度行動障害についてのお話です。この問題については、厚労省で検討会が行われており、年末には私も親の立場からヒアリングを受けました。話した内容がホームページにアップされていますのでご興味のある方はご覧下さい

[第4回強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会議事録 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

強度行動障害と呼ばれてしまう人の家庭については、やはり家族だけでは限界があります

小島家は、夫が定年退職してから、息子の世話を今までより長い時間してくれるようになり、私が距離をおいたら、安定することも多くなってきました

それまでは、不穏になった時は夫の職場に電話して、定時で帰ってもらえるようお願いしました

職場は、遠いからすぐには帰宅出来ないのですがなぜか、電話でSOSを出すと私も息子も落ち着きました

今は、朝ご飯やお風呂の用意、着替え、施設に行く準備などをすべてやってから私は隠れます。車の中にいたり、2階にいたりしてドキドキしながら耳を澄ましています

先日の朝もおそらく食べ過ぎか？や暖房で部屋が暖かすぎ？などで嘔吐し、大声を上げていました

私の姿を探していたので、とっさに姿を隠し外に出ました

私がいらないの確認すると(目で確認)何かつきものが落ちたように穏やかになり鼻歌混じりに車に乗り込みました。母としては複雑です。甘えというのとは、また違うと感ず

お父さんやお母さんが働いている人は、そうはいきません。やはりヘルパーなどが家に入ることが、必要ではないかと思えます

家に他の人が入るのが嫌だと思われる方がいることも承知していますが・・・

とにかく、第三者に頼るしかないと思うのです

私は親で専門家ではないので、これからも本人や家族の話をしていきたいと思っています